



# 第2回札幌市ウォークアブル ビジョン策定検討委員会

令和6年12月10日(火)10:00～  
開始までしばらくお待ちください



# 本日の流れ

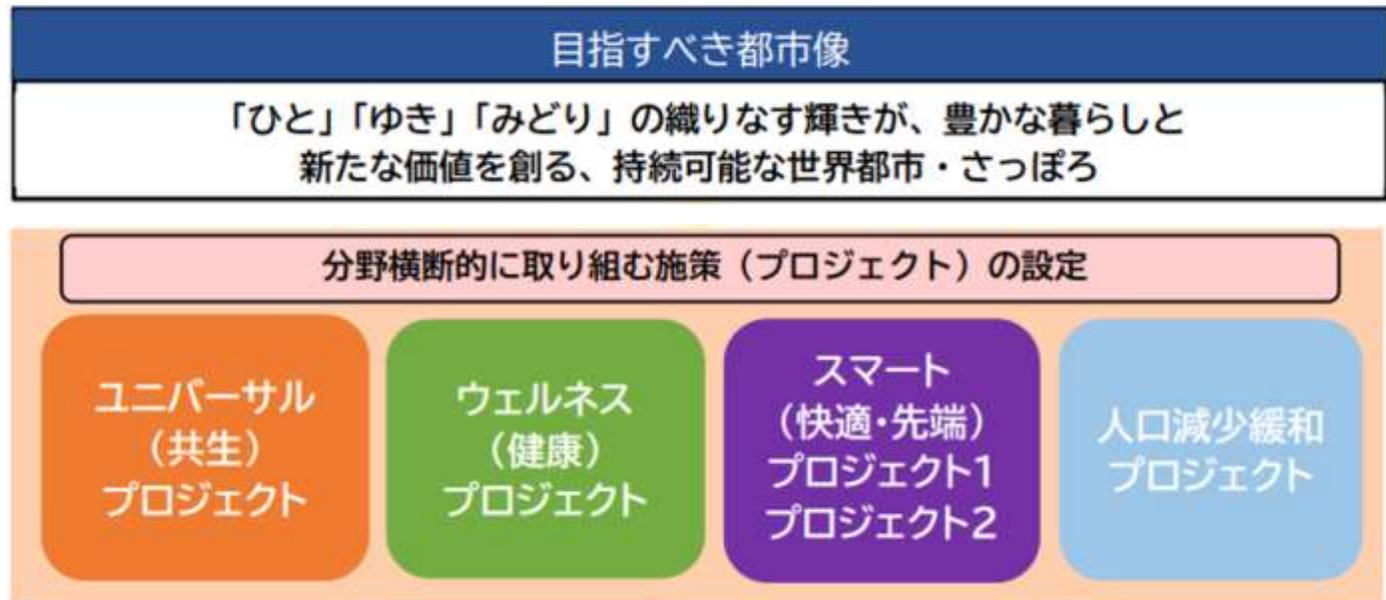
- 1 開会挨拶
- 2 事務局説明
  - ・ 前回の振り返り
  - ・ 公募型実証実験の実施結果
  - ・ 成果報告会及び市民ワークショップの開催結果
  - ・ 「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」PTの検討状況
  - ・ 「（仮称）札幌市ウォーカーブルビジョン」中間骨子案
- 3 意見交換
- 4 事務連絡・閉会

# 「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」策定の背景

- ・令和4年度に札幌市の長期総合計画である「第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン」を策定
- ・重要施策の一つとして「ウォーカブルシティの推進」を掲げ、市長公約にも位置づけられている



札幌市の長期総合計画(令和4～13年度)



プロジェクト3本柱の1つに【ウォーカブルシティの推進】  
「居心地が良く歩きたくなり、多様な活動ができる・滞留したくなる空間の形成に向けて、都心・地域交流拠点・住宅市街地のそれぞれの特性を生かした空間の整備を進めます。」

# 札幌市におけるウォーカブル推進の意義・目的

- ・ウォーカブルシティ(居心地がよく歩きたくなるまち)推進の意義は様々あるが、都市によって力点が異なる
- ・札幌市では特に「健康」「安全・安心」「交流・にぎわい」の観点から推進する必要性が高いと考えている

## ■市民の健康増進

- ・札幌市の健康寿命は、他の政令指定都市と比較して低位  
※20政令市中17位
- ・積雪寒冷地であり、冬期間の外出が減少する傾向  
※秋期と比較して冬期の外出率が約16%減少

⇒歩きたくなる、外出したくなるまちづくりにより、市民の健康増進を図る

## ■安全・安心な歩行環境

- ・道内の令和5年度交通事故による死者数の内、約40%が歩行者
- ・誰もが円滑に移動でき、快適に利用できる空間の必要性(ユニバーサル)
- ・「こどもまんなかまちづくり」など、こどものための生活空間を形成する機運の高まり

⇒歩きたくなるまちづくりにより、誰もが安全・安心に移動できる歩行環境をつくる

## ■交流・にぎわいの創出

- ・拠点における商業機能の空洞化  
※商業店舗の住宅用途への転換など
- ・地域コミュニティの希薄化  
※町内会加入率低下による担い手不足など
- ・観光戦略としての消費額の大きい海外客誘致の必要性  
※第2次札幌市観光まちづくりプランより

⇒地域の特性に応じた歩きたくなるまちづくりにより、市民とともに交流・にぎわいを創出する

# 「(仮称) 札幌市ウォークアブルビジョン」の構成案

※「サッポロウォークアブル」とは、札幌市が目指すウォークアブルなまちの姿のことを指します

## 【ビジョン構成】

1. 札幌市におけるウォークアブル推進の意義・目的の整理
2. 「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」それぞれにおける“目指す姿”の整理・可視化
3. サッポロウォークアブル推進に資する効果的な手法やモデルケースの紹介
4. 官民それぞれの役割を整理したサッポロウォークアブル推進体制や支援策の方向性

## 【ターゲット】 ※誰に:どのように活用してほしいか

- 地域団体及び企業(民):地域主体のウォークアブルなまちづくりの参考書として活用  
官民が連携したまちづくりの実施における基本的な考え方として活用
- 札幌市役所内部(官):札幌市が目指すウォークアブルシティ像を明確化し、部局横断的な指針として活用  
→具体的には“各地区のまちづくり”や“規制緩和”、“支援制度”の推進に寄与

## 札幌市ウォークアブルビジョン策定検討委員会スケジュール

- 令和6年度:年度内にビジョン骨子案の報告を予定。次回(第3回)は3月頃の開催を想定
- 令和7年度:ビジョン骨子案を素案にまとめ、庁内最終合意形成・議会報告・パブコメを経て年度末に公表

令和6年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会			●第0回:「サッポロウォークアブルシンポジウム」		●第1回:(ビジョン構成案/実証実験計画案)				●第2回:本日 (実証実験結果報告 /ビジョン中間骨子案)			●第3回: (ビジョン骨子案)

令和7年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検討委員会		●第4回: (ビジョン素案) ※進捗状況によって第4回と第5回を統合する可能性有			●第5回: (ビジョン案)	庁内最終合意形成・議会報告				パブコメ		★ ビジョン公表

➡現行の札幌市の最上位計画である「第2次まちづくり戦略ビジョン(計画期間:令和4年~13年度)」に基づき、「(仮称)札幌市ウォークアブルビジョン」においても令和13年度頃までの札幌市を取り巻く社会経済情勢を考慮して、ビジョン策定作業をすることが必要。またビジョン策定後はより具体的な推進計画の策定も検討している

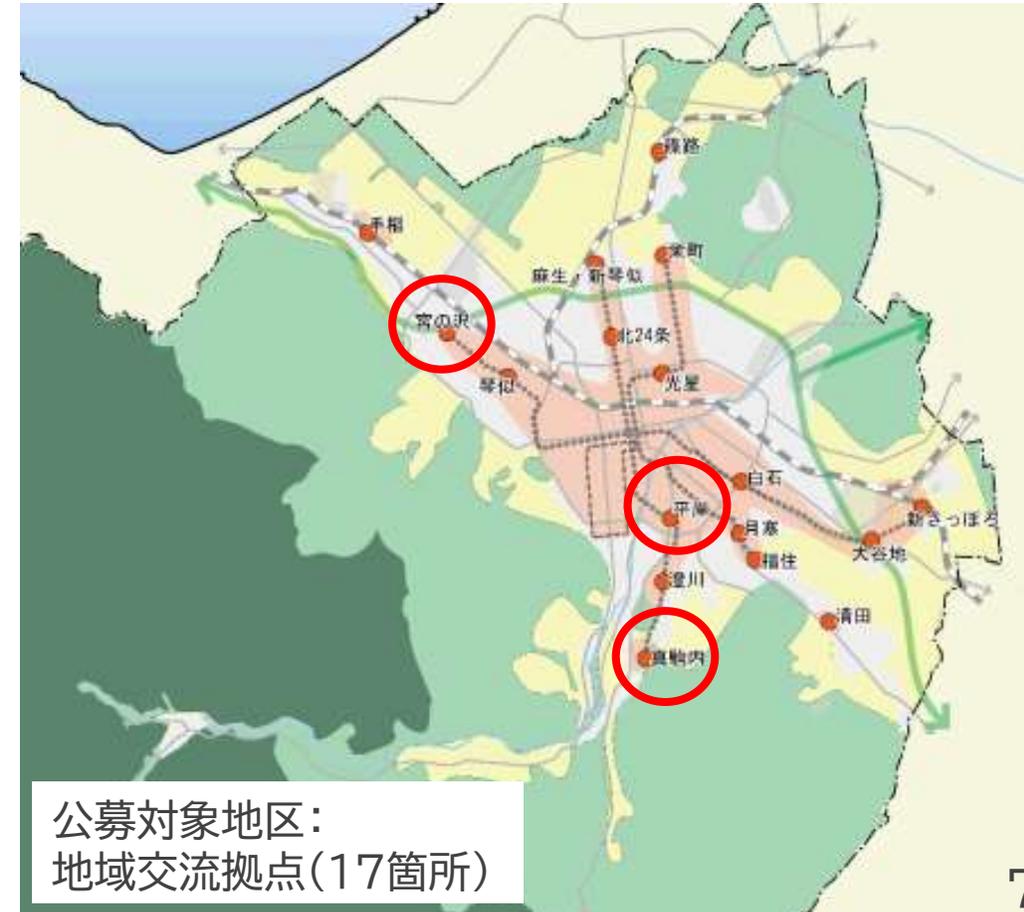
# 公募型実証実験の実施結果

## 公募型実証実験の概要

- 「効果的な手法」の検討に向けて、地域団体等が主体となったウォーカブルなまちづくりの可能性を検証
- 道路や公園、広場等の公共的空間を活用する事業を募集し、3件(応募7件中)を採択

### <実施スケジュール>

- 7月4日:審査委員会の開催、採択団体の決定
- 7月28日:市民ワークショップにてご紹介
- 8月3,4日:第1弾【平岸地区】
- 8月24日 :第2弾【宮の沢地区】
- 9月28日 :第3弾【真駒内地区】
- 11月17日:成果報告会  
※市民ワークショップ同時開催



# 【第1弾】平岸地区 実施概要

企画名：「平岸夏祭り」、実施団体：「マルシェ本舗」※学生団体

## ■ 実施概要

### <場所>

- 地下鉄平岸駅から約400mの位置にある、平岸街道に繋がる生活道路、及び街区公園(風の子公園)

### <目的>

- 公共的空間を活用した、住宅街における夏の風物詩(盆踊り、縁日)の復活と、地域の交流機会の創出

### <内容>

- これまでも実施していた「平岸マルシェ」は、昼開催であり、民地と一部の道路敷地利用のみであった
- 今回の実証実験では道路占用範囲を拡大し、キッチンカーや休憩スペースを設置。夜の盆踊りは初開催
- 隣接する公園を初めて活用(公園占用)し、子ども向けイベントや飲食スペースを設置した



## ■ 比較写真 (左:道路/右:公園)



# 【第1弾】平岸地区 効果検証結果

## ■健康、安全・安心、交流・にぎわい効果

### 【健康】

- ・歩行者数が約6倍(126人→767人)に増加
- ・歩行量※が約1.91倍(+5,631歩)に増加  
※歩行量計測アプリを入れた人の1日の歩行量に着目して平時と比較計測
- ・「普段よりも歩く時間が増えた」と回答した方が約5割

### 【安全・安心】

- ・道路の歩行者天国化+公園の利活用により、従来よりも子どもが安心して遊ぶことができた※  
※平時と比較して、子どもの人数が約19倍(14人→265人)に増加

### 【交流・にぎわい】

- ・滞在時間が約23倍(2.3分→51.9分)に増加
- ・周辺店舗において「新規客が増加した」という回答が7割
- ・アクティビティが「通過」のみから「飲食」「会話」「休憩」「縁日」「盆踊り」などに増加
- ・「同行者との会話が増えた」と回答した方が約3割

## ■その他の効果と今後の課題

- ・左記以外にも、学生主体の地域協働企画により、公共的空間活用の人材育成効果があると考えられる
- ・来年度以降も継続的に実施し、今後はより地域住民との連携を深めていくとの方向性が示されている
- ・今回初めて道路上にキッチンカーを設置したが、道路占用許可基準が全市的に変更になった直後ということもあり、比較的スムーズに協議は進んだ印象
- ・公園使用については、新たなイベントの実施に際して、公園管理者との協議・調整に時間を要した。

## ■実証実験から得られた「効果的な手法」

- ①道路空間を活用したキッチンカーや飲食スペースの設置  
→住宅街の中であっても、道路空間を活用したイベントを実施することにより歩行者数や滞在時間の向上に寄与
- ②公園を活用した子供向けイベントの実施  
→周辺の子どもが多数来場し、通常の公園利用に加えて、イベントを実施することの可能性も感じられた

# 【第2弾】宮の沢地区 実施概要

企画名：「コンサふれあい通りのホコテン化プロジェクト」、実施団体：「宮の沢まちづくり協議会」

## ■ 実施概要

### <場所>

- 地下鉄宮の沢駅から約800mの位置にあり道道124号へつながる補助幹線。観光施設「白い恋人パーク」と近隣公園(宮の沢ふれあい公園)に挟まれた道路空間で実施

### <目的>

- 道路空間を歩行者天国化し、周辺施設を安全につなぎ、また有効利用することで、回遊性や安全性を向上させる

### <内容>

- 同日、宮の沢ふれあい公園にて開催されたお祭りに合わせて歩行者天国化を実施。滞留スペースも設置
- 子どもが楽しく歩ける仕掛けや、北海道コンサドーレ札幌と連携したキックターゲットを実施
- お祭り会場や白い恋人パークと連携し、来場者に回遊を促すスタンプラリーも実施した



## ■ 比較写真（コンサふれあい通り）



# 【第2弾】宮の沢地区 効果検証結果

## ■健康、安全・安心、交流・にぎわい効果

### 【健康】

- ・歩行者数が約9倍(543人→4,750人)に増加
- ・歩行量※が約2.64倍(+11,440歩)に増加
- ※歩行量計測アプリを入れた人の1日の歩行量に着目して平時と比較計測
- ・「普段よりも歩く時間が増えた」と回答した方が約7割

### 【安全・安心】

- ・以前より乱横断が課題となっていた道路の歩行者天国化により、安全に通行することができたという多数の声  
(特にお祭り時には人が溢れて毎年危険な状態にあった)
- ・外国人観光客の利用も確認することができた

### 【交流・にぎわい】

- ・滞在時間が約2倍(3.8分→7.8分)に増加
- ・周辺店舗において「新規客が増加した」という回答が5割
- ・アクティビティが「通過」のみから「飲食」「会話」「休憩」「縁日」「スポーツ」などに増加
- ・「同行者との会話が増えた」と回答した方が3割

## ■その他の効果と今後の課題

- ・左記以外にも、周辺の施設(公園、サッカー場、白い恋人パーク)がつながることで、回遊性が高まりエリアとしての一体感がみられた
- ・初めての試みであったが、地域住民からの苦情等もほぼ無く好意的な声が多かったため、来年度以降も継続的に実施していくとの方向性が示されている
- ・3つの実証実験中、最も規模の大きい歩行者天国であったことから、道路管理者協議に相当時間を要した。道路空間の利活用を市全体として明確に推進していない現状が原因となっていると考えられる

## ■実証実験から得られた「効果的な手法」

- ①歩行者天国化による周辺エリアの一体化
  - ➡魅力的な周辺施設の中間に位置する道路を歩行者天国化することで、人流が増え、また安全・安心の向上に寄与
- ②エリア一帯の回遊性を高めるソフト施策(スタンプラリー)
  - ➡ハードの工夫だけでなく、スタンプラリーなどのソフト施策を組み合わせることで、回遊性が向上した

# 【第3弾】真駒内地区 実施概要

企画名：「マコエキフェス」、実施団体：「マコエキ会」※旧「真駒内駅前のみちづくりを考える会」

## ■ 実施概要

### <場所>

- 地下鉄真駒内駅から約100mの位置にある平岸通に面した駅前広場。バス・タクシー乗り場に面する

### <目的>

- 真駒内駅前のにぎわい形成(将来の駅前再整備計画を見据えた駅前広場の在り方)を地域自らが考えるきっかけとするため

### <内容>

- 真駒内の隠れた名店マルシェやキッチンカーを配置
- ストリートミュージックや紙芝居なども実施
- 複数種類の休憩スペースを用意し、シーンによって可変的に空間を活用(ヘキサベンチの組み換えなど)
- 同日開催の「マコフェス」と連携したスタンプラリー



## ■ 比較写真（駅前広場 ※歩行空間）



# 【第3弾】真駒内地区 効果検証結果

## ■健康、安全・安心、交流・にぎわい効果

### 【健康】

- ・歩行者数が約2倍(1,110人→2,210人)に増加
- ・歩行量※が約3.02倍(+10,221歩)に増加
- ※歩行量計測アプリを入れた人の1日の歩行量に着目して平時と比較計測
- ・「普段よりも歩く時間が増えた」と回答した方が約5割

### 【安全・安心】

- ・現場にて「駅前に人の目があることで、安心感がある」との声が聞かれた(特に夜間は暗く、不安があるとのこと)
- ・子ども、高齢の方、障がいのある方など、様々な方が広場集まり、ゆっくりと滞在している姿が見られた

### 【交流・にぎわい】

- ・滞在時間が約7倍(3.2分→22.3分)に増加
- ・周辺店舗において「新規客が増加した」という回答が7割
- ・アクティビティが「通過」のみから「飲食」「会話」「休憩」「パフォーマンス鑑賞」などに増加
- ・「同行者との会話が増えた」と回答した方が3割

## ■その他の効果と今後の課題

- ・左記以外にも、今後予定されている駅前再整備計画による未来の交流広場について考えるまたとない機会となった
- ・ストリートパフォーマンスでは、音の演出により周辺を通行する地域住民の方も興味を示すなど、より広範囲に効果が得られた
- ・約30年振りの広場活用であったが、今後も地域住民主体で実施していきたいとの方向性が示されている
- ・冬期間の活用も望まれるが、除排雪の問題や気候条件の厳しさから、実際の活用にはハードルが高い点が課題となる

## ■実証実験から得られた「効果的な手法」

- ①駅前広場空間の地域住民による利活用
  - ➔平時から多くの人通りがある駅前広場空間を活用することで、偶発的な出会いから新たな交流を生むことが可能
- ②ストリートパフォーマンスや紙芝居による体験型コンテンツ
  - ➔普段は通行するだけの駅前空間において、新たな体験と滞在時間の増加に大きく寄与。新たな交流にも繋がった

# 成果報告会及び市民ワークショップの開催結果

3つの実施団体、一般市民、行政担当者が集まり、成果の共有と課題についてWS実施



実施団体による発表の様子



ワークショップ議論の様子



ワークショップ発表の様子



集合写真

## ■成果発表の概要

- 実証実験を通じて、地域が主体となったウォーカブル施策（公共空間の利活用）の有効性が確認された
- 一方で、滞在しやすい環境づくりや関係者との連携については課題があり、さらなる工夫が必要と感觉到了

## ■ワークショップでの意見

テーマ：ウォーカブルの取組を今後も継続していくためのアイデア

- 道路使用許可・占用許可等の手続きが煩雑だったため、一括で行えるワンストップ窓口が設置されると良い
- 公共空間活用に関する手引き(ガイドライン)があると良い
- 札幌市が貸し出せる物品情報の公開や、その保管場所が確保されると良い
- 各地域でまちづくりに取り組んでいる団体同士の交流の場があると、アイデアが出やすくなるのではないかと
- 公共空間を使用する際に、要件の緩和があると良い

# 市民参加型「サッポロウォーカブルプロジェクト」の結果

様々な機会を捉えて市民参加型の計画策定プロセスを導入

6/2:「サッポロウォーカブルシンポジウム@北大FMI」

7/28:「第1回市民WS@Space札幌EAST」

8/3:「第1回フィールドワーク@平岸」

8/24:「第2回フィールドワーク@宮の沢」

9/28:「第3回フィールドワーク@真駒内」

11/17:「成果報告会&第2回市民WS@札幌テレビ塔」



# 市民参加型「サッポロウォーカーカブルプロジェクト」の結果

## これまで得られた市民意見一覧(抜粋)

### ■歩いて楽しいまちとは？

- ・地面にサインがあると歩く楽しさが増し、歩行意識が高まる
- ・緑がたくさんあって心地よい日陰で休めたり、水辺や自然を感じられる遊歩道があると良い
- ・歩きやすい歩道を増やすとともに、テーマが感じられる歩行空間になると良い
- ・歩行者天国などは非日常的な体験ができ楽しめる場になる

### ■札幌らしいウォーカーカブル空間とは？

- ・自転車が通行しやすい環境ができ、ポロクルのポートも増えると良い
- ・地下鉄駅周辺に、住民や駅利用者が気軽に使える休憩スペースがあると良い
- ・活用されていない公園でキッチンカーや移動販売を常設で設置できるとコミュニティ形成につながる
- ・大通公園や豊平川など、緑地や水辺空間を活用することで、自然との共生を感じられる空間になる

### ■冬でも歩きたくなるまちとは？

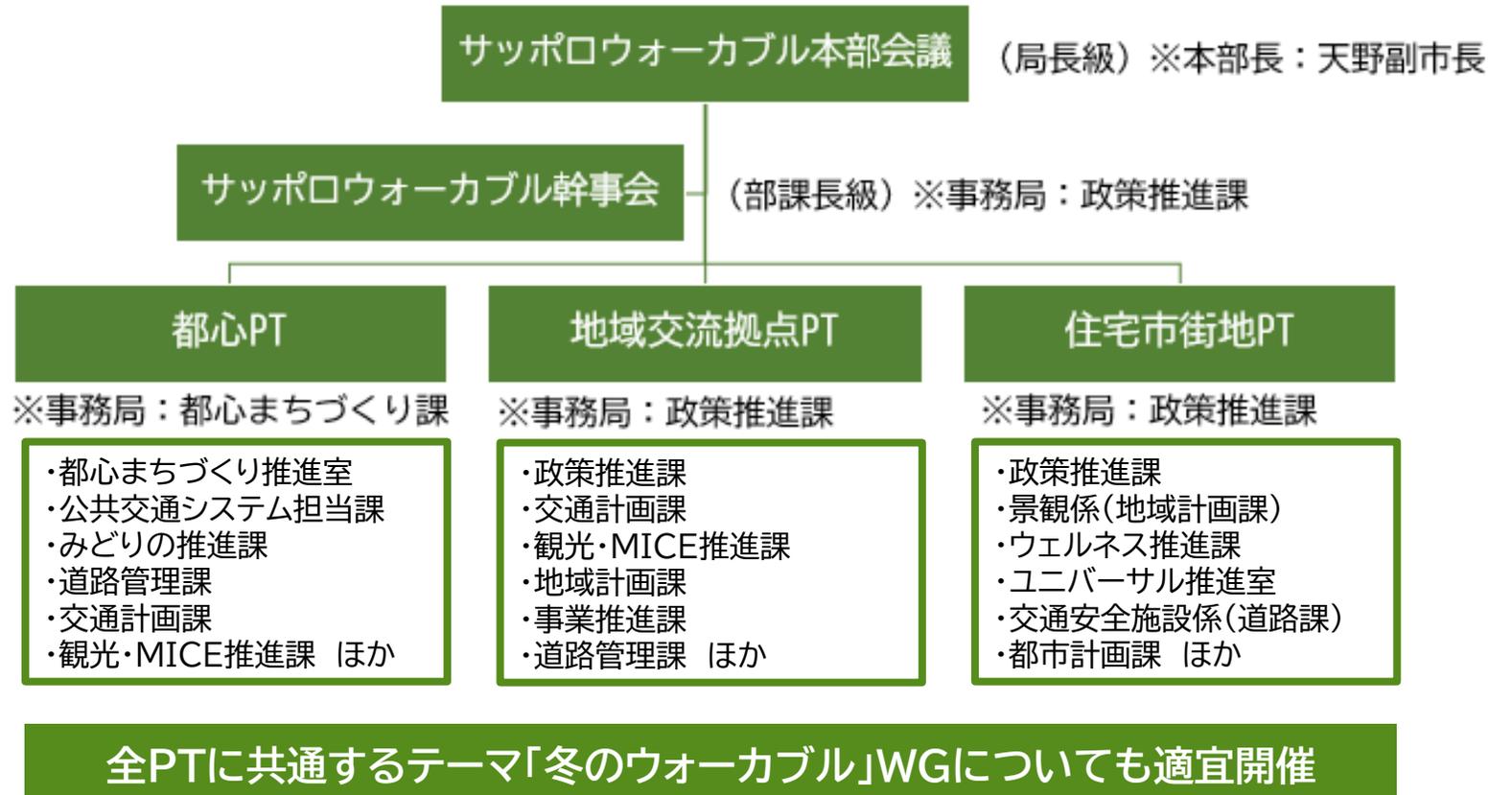
- ・温まることが出来る建物やベンチを増やし、休憩したり、飲食しながら歩けるようになると外に出やすくなる
- ・冬を楽しむものだと考え、イルミネーションや焚火ができる場所などがたくさんあると楽しいと感じる
- ・市街地だけでなく、町内会館などの身近なスペースでもイベントがあると外に出たくなる
- ・イベントやロードヒーティングを無理に行うのではなく、室内の活用に着目してみるのも良い

## 「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」PTの検討状況

ウォーカブル推進本部会議後、各プロジェクトチームに分かれて庁内議論を開始



本部長(天野副市長)より、「これまでの慣例に縛られず、新たな制度の活用や、既存の事業の見直しなどを積極的に行うこと」と指示があった(令和6年6月18日第1回本部会議)



## 「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」PTの検討状況

### 都市空間の種別

**都心**

北海道・札幌市の魅力と活力をけん引し、国際競争力を備えた高次の都市機能が集積するエリア

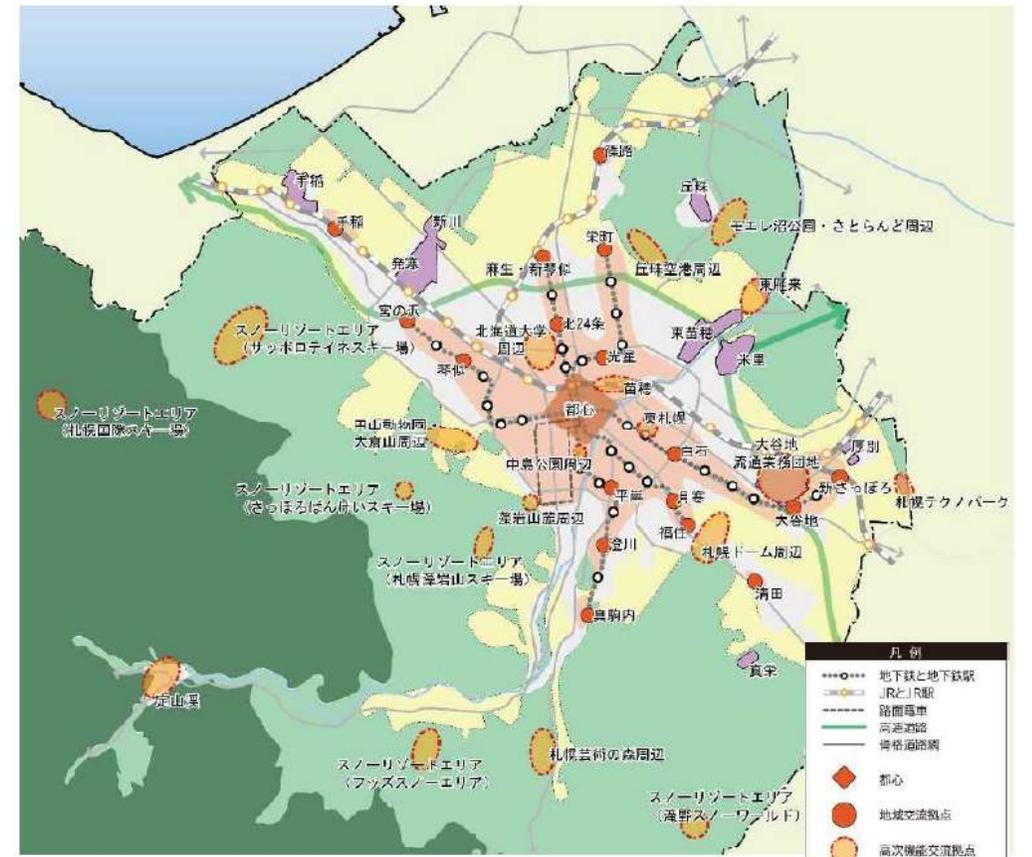
**地域交流拠点**

主要な交通結節点周辺や区役所周辺などで、商業・サービス機能や行政機能など多様な都市機能が集積し、人々の交流が生まれ生活圏域の拠点となるエリア

**住宅市街地**

多様なライフスタイルを支えるとともに、交通基盤の体系と対応した秩序ある土地利用を誘導する観点から、住宅市街地の区分※を定め、各区分に応じた居住環境の魅力向上や生活利便性の確保を図るエリア

※「複合型高度利用市街地」「一般住宅地」「郊外住宅地」



<第2次札幌市まちづくり戦略ビジョン 都市空間イメージ図>

凡例

- 地下鉄と地下鉄駅
- JRとJR駅
- 路面電車
- 高速道路
- 幹線道路網
- 都心
- 地域交流拠点
- 高次機能交流拠点
- 複合型高度利用市街地
- 一般住宅地
- 郊外住宅地
- 工業地・流通集積地
- 市街化調整区域
- 都市計画区域外

# 「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」PTの検討状況

## 都心プロジェクトチーム

### 現在の主な取組

#### ■交通課題の解消と賑わいの創出の両立

- ・R4年度に、路上駐車などの交通課題や道路空間における賑わいの創出を目的とした実証実験を実施。
- ・片側2車線のうち1車線を規制し歩行空間を拡大するとともに、賑わい空間と荷さばき空間のタイムシェアにより限られた道路空間を有効活用した。
- ・休日の歩行者交通量が1.9倍に増加した。  
(2.36万人→4.44万人)
- ・上記の効果等も踏まえ、今後の都心部における道路空間活用のあり方などを継続検討中。



#### ■民地、道路、地下空間の一体利活用

- ・道庁南エリアでは、地権者等で構成される「道庁南エリア研究会」によってまちづくりの取組が進められており、R4年度から社会実験を実施。
- ・R4年度の民地活用から始まり、R5年度には道路空間の活用へと徐々に活用する空間を拡大し、R6年度には地下空間も活用。
- ・今後もエリアの目指す姿の具体化などと併せて、空間利活用の取組を進める。



#### ■中通りの魅力化や荷さばきの効率化

##### ○中通りの魅力化

- ・R6年度に、都心の中通りへ継続的な賑わいを創出することを目的として、道路空間にテーブルやイスを常設するとともに、沿線のテナントやキッチンカー等が出店する実証実験を実施。
- ・持続可能な仕組みの構築など、今後の展開を検討中。



##### ○荷さばきの効率化等

- ・R6年秋から、沿道施設や物流事業者と連携し、荷さばきの効率化や歩行者の安全確保に向けた実証実験を実施中。

#### ■公共的空間活用の推進体制の構築

##### ○公共的空間活用会議の設置

- ・R4年度に公共的空間活用に係る実証実験の企画・検討や会員同士のネットワーク構築などを目的として公共的空間活用会議を設置し、会員企業等による議論を継続的に実施。



##### ○大通公園プレイスメイキング実証実験

- ・R3年度から、防災の視点や日常の公園利用をより豊かにする取組を実施。
- ・多様な来街者が空間を利用し、休憩、飲食、読書、音楽演奏、文化体験などの様々な活動や偶発的な交流が生まれた。
- ・今後も実験的な取組を継続するとともに、公共的空間活用に必要な体制のあり方の検討を進める。



# 「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」PTの検討状況

## 地域交流拠点プロジェクトチーム

### 現在の主な取組

#### ■地域交流拠点「宮の沢」のまちづくり

- ・R5年度に地域と協働で「居心地が良く歩きたくなる“宮の沢未来ビジョン”」を策定
- ・R5年度冬に冬季公園空間活用実証実験を実施
- ・R6年度夏に、白い恋人パーク前の歩行者天国化を実施
- ・R6年度秋に、ちえりあ前広場の空間活用実験を実施
- ・R7年度頃に「宮の沢地区まちづくり指針」を策定予定



#### ■観光客の受入環境整備

- ・観光案内機能の充実や交通機関の乗り換え利便性向上が課題となっていることから、駅から市内の主要な観光施設に向かう経路・交通機関について、駅構内などでの案内サイン等の強化を検討
- ・Sapporo City Wi-Fiの運用及び利便性向上に向けた調査検討の実施



#### ■地域交流拠点「真駒内」のまちづくり

- ・R5年度に「真駒内駅前地区まちづくり計画」を策定
- ・「歩いて暮らせるまちの拠点」を基本方針の一つに位置付け、多くの人が行き交い、にぎわいや交流が生まれる駅前の歩行者空間の確保を目指す
- ・駅前の幹線道路のルート変更により、駅と連続した街区を形成し、にぎわいを感じられる駅前空間を確保する



#### ■自転車通行空間の整備

- ・R5年度に「札幌市自転車活用推進計画」を策定
- ・矢羽根型路面表示により車道通行率が向上
- ・郊外駅周辺における整備も計画的に推進している
- ・交通状況や道路状況等を踏まえて、道路空間の再配分による通行空間の確保も検討
- ・都心部及び郊外駅周辺における「整備計画」を策定予定



#### ■地域交流拠点「新さっぽろ」のまちづくり

- ・R5年度に市営住宅跡地を活用した施設整備が完了
- ・公募提案売却の条件としていたエリアマネジメント団体による様々な活動が展開されている
- ・エリアマネジメント団体が主体となり、地区内の公共的空間を活用するためのビジョンを策定中



#### ■道路占用許可基準の改正等

- ・道路管理行政を所管する道路管理課と各地区のまちづくり担当者が連携してウォークブルなまちづくりを支援
- ・R6年度には道路占用許可基準を改正し、道路上に設置するキッチンカー等の許可基準を明確化するなど支援 ※公募型実証実験「平岸夏祭り」にて活用



# 「都心」「地域交流拠点」「住宅市街地」PTの検討状況

## 住宅市街地プロジェクトチーム

### 現在の主な取組

※住宅市街地PTでは、ウェルネス施策やユニバーサル施策など、全市的なテーマも含めて幅広く取り扱います

#### ■景観まちづくり

- ・地域ごとの景観まちづくりの推進
- ・景観まちづくり助成金による活動支援  
→藻岩山麓ゆきあかり等
- ・令和8年度中の札幌市景観計画の改定を目指し検討中  
→冬の景観、夜間景観等について取組を強化



#### ■「ミニ大通」のまちづくり

- ・昭和50年に開通した北4条歩行者専用道(ミニ大通)
- ・やすらぎと憩いの場として地域に親しまれている
- ・近年は老朽化が目立ち、地域の課題となっている
- ・R4年度に「ミニ大通を未来へつなぐ協議会」が設立
- ・R6年度には地域主催のイベント(道路活用含む)を実施
- ・将来ビジョンや持続可能なまちづくりの在り方を検討中



#### ■通学路における児童の安全対策

- ・札幌市通学路交通安全プログラムに基づき毎年度点検
- ・各小中学校や道路管理者、警察が連携し安全を確保
- ・歩道拡幅や交差点改良などのハード整備だけでなく、該当啓発や児童に対する安全指導など複合的に対策
- ・R6年度には可搬式ハンブを試験設置した



#### ■地域に身近な公園の再整備

- ・「札幌市公園整備方針」に基づき、それぞれの公園に役割を持たせて機能を分担(地域の核、機能特化、その他)
- ・地域ニーズの把握と合意形成は時間をかけ丁寧に実施
- ・多世代の交流が生まれ、絆が深まるような場所に



#### ■ウェルネス施策の推進

- ・各区でウォーキングマップ制作し、地域活動を推進
- ・R5年度春から札幌市に担当組織を新設  
協働する企業が集まる「ウェルネス推進会議」立ち上げ
- ・市の公式アプリを活用した、企業対抗歩数競争や商業施設のコースを活用した「モールウォーク」、まちなめぐりを兼ねたスタンプラリーなど、企業と連携した企画を実施



#### ■ユニバーサル施策の推進

- ・R6年度に策定した「ユニバーサル展開プログラム」では、誰もが円滑に移動することができ、快適に利用できる施設等の整備を三本柱の一つに設定
- ・誰もが移動をあきらめない世界を目指す「Universal Maas」の取組の推進  
→バリアフリーの経路情報等を発信する「ユニバーサル地図/ナビ」の提供を開始
- ・「(仮称)札幌市誰もがつながり合う共生のまちづくり条例」の制定検討



# 「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」中間骨子案

## 第1章：「札幌市におけるウォーカブル推進の意義・目的」

### 札幌市がウォーカブル政策を推進する意義

#### ■市民の健康増進

歩きたくなる、外出したくなるまちづくりにより、市民の健康増進を図る

#### ■安全・安心な歩行環境の創出

歩きたくなるまちづくりにより、誰もが安全・安心に移動できる歩行環境をつくる

#### ■交流・にぎわいの創出

地域の特性に応じた歩きたくなるまちづくりにより、市民とともに交流・にぎわいを創出する

### 札幌市が目指すウォーカブルなまちの姿

※市民生活が変わる具体的なイメージがわき、共感が得られる言葉にリライト予定

#### ①歩くことが楽しく、健康に暮らせるまち

#ウェルネス、#ウェルビーイング、#ウォーキング、#身体的・精神的・社会的健康

#### ②みどりとともに暮らす、持続可能なまち

#まちづくりGX、#グリーンインフラ、#公園の利活用、#ゼロカーボンシティ

#### ③誰もが安心して、円滑に移動できるまち

#こども、#ユニバーサル、#事故対策、#公共交通、#自転車、#バリアフリー

#### ④居心地が良く、自分らしくいられる居場所があるまち

#サードプレイス、#市民参加、#プレイスメイキング、#町内会、#ダイバーシティ

#### ⑤札幌らしい、四季を通じて歩きたくなるまち

#冬のウォーカブル、#景観、#観光、#UIターン、#商店街

# 「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」中間骨子案

## 第2章:「サッポロウォーカブルの“目指す姿”」<都心>

### 【都心】それぞれの空間において目指す姿

※…該当する「札幌市が目指すウォーカブルなまちの姿」

#### ■道路空間等 ※①②③④⑤



イメージパース

「四季の彩りを感じながら、回遊や滞在をしている風景」

「ヒトやモノが円滑に移動し、沿道施設を歩き来している風景」

→街路樹や沿道のみどりにより、街並みを感じながら、散策や休憩、風景の鑑賞などができる空間を創出するとともに、機能的な交通環境の構築を目指します

(手法イメージ)

- ・回遊の基軸となる象徴的なストリートの形成
- ・沿道と一体となった魅力的な街路空間形成
- ・都市活動を支える、荷さばきや人々の乗降などの空間の確保 など

#### ■屋外広場空間等 ※②④⑤



イメージパース

「みどりやゆとりが感じられ、来街者の多様な活動が生まれている風景」

→来街者のイベント参加や参加者間の交流、パフォーマンス、子どもたちの遊ぶ姿、観光客の写真撮影などの多様な活動が生まれる魅力的な空間の創出を目指します

(手法イメージ)

- ・冬でも滞在したくなる魅力的な景観形成
- ・雪を活かした特徴的なイベント実施
- ・持続可能な利活用の仕組みや体制の構築 など

#### ■地下空間等 ※①②③④⑤



イメージパース

「四季を通じて安全・安心に回遊ができ、賑わいを感じられる風景」

→春季・夏季・秋季はもとより、積雪のある冬季においても、安全・安心な歩行環境の充実や賑わいの創出を目指します

(手法イメージ)

- ・官民連携による地上・地下動線の充実
- ・柔軟な利活用の仕組みや体制の構築 など

# 「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」中間骨子案

## 第2章:「サッポロウォーカブルの“目指す姿”」<地域交流拠点>

### 【地域交流拠点】それぞれの空間において目指す姿

※…該当する「札幌市が目指すウォーカブルなまちの姿」

#### ■道路空間等 ※①③④⑤



「地域の魅力に触れ、思わず寄り道を  
するほど、歩くことを楽しんでいる風景」

→拠点周辺の道路空間では、通行機能だけでなく、楽しく回遊できる仕掛けがあり、寄り道がしたくなる道路空間の創出を目指します

(手法イメージ)

- ・ほこみち制度等による道路空間の利活用
- ・気軽に利用できる休憩施設等の設置
- ・魅力的な沿道施設(民間)の誘導

#### ■広場等 ※①④⑤



「ここに行けば誰かに会える、偶然の  
出会いと、人々の笑顔が行き交う風景」

→拠点のにぎわいの核となる広場等では、多世代が交流し、様々なアクティビティにより、地域の笑顔が集まる空間の創出を目指します

(手法イメージ)

- ・エリアマネジメントによる広場の利活用
- ・官民が連携した、快適な滞留空間の整備

#### ■交通施設等 ※②③



「誰もが安心して、快適に公共交通機関  
を利用している風景」

→交通結節点としての利便性を高めることで、自動車に頼らずとも、誰もが安全で、自由に移動ができる環境を目指します

(手法イメージ)

- ・交通結節点機能向上(乗継利便性の向上)
- ・拠点における自転車通行空間の確保

# 「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」中間骨子案

## 第2章:「サッポロウォーカブルの“目指す姿”」<住宅市街地>

### 【住宅市街地】それぞれの空間において目指す姿

※…該当する「札幌市が目指すウォーカブルなまちの姿」

#### ■道路空間等 ※①③⑤



「自然を身近に感じ、安心して散歩を楽しんでいる風景」

→住宅市街地における道路空間等では、より自然を身近に感じ、思わず散歩に出かけたくなるような空間の創出を目指します

(手法イメージ)

- ・地域特性に応じた道路空間の再整備
- ・自然歩道や登山道の整備
- ・道路空間を活用した地域密着型のマルシェ

#### ■公園等 ※②④⑤



「身近な公園で子どもからお年寄りまで、自分らしく過ごしている風景」

→住宅市街地における公園等では、地域特性に応じた環境整備や利活用により、住民に寄り添った空間の創出を目指します

(手法イメージ)

- ・地域住民とともにつくる公園等の再整備
- ・公園等の利活用のさらなる推進

#### ■学校周辺等 ※②③



「子どもたちが安心して、笑顔で学校に通っている風景」

→通学路の安全化を進めることで、交通事故の危険から子どもを守り、安心して通学できる環境の創出を目指します

(手法イメージ)

- ・通学路の安全対策強化
- ・学校周辺の自動車速度規制

# 「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」中間骨子案

## 第2章:「サッポロウォーカブルの“目指す姿”」<冬のウォーカブル>

### 「冬のウォーカブル」の目指す姿

※…該当する「札幌市が目指すウォーカブルなまちの姿」

#### ■広場等 ※①④⑤

「雪に親しみ、様々なアクティビティを多世代で楽しんでいる風景」

→冬の広場等では、雪を活かした魅力的な空間活用を行うことにより、札幌らしい体験が楽しめる空間の創出を目指します  
(手法イメージ)

- ・スケートリンクや雪合戦など体験型の空間活用
- ・雪まつりや屋外映画祭など集客コンテンツ誘致



#### ■道路空間等 ※①④⑤

「人の息づかいと温かみを感じながら、大切な人と寄り添って歩いている風景」

→冬の道路空間等では、雪に映える演出や、多様な空間活用の取組により、訪れる人の心に残る空間の創出を目指します  
(手法イメージ)

- ・官民が連携したイルミネーションの活用
- ・道路空間を活用したスノーキャンドル等の設置



#### ■屋内(滞留)空間等 ※②③④

「誰でも利用できる屋内空間で、訪れた人が自由に過ごしている風景」

→再開発事業等の民間開発においては、四季を通じて活用できるオープンスペース確保等の取組により、快適な屋内空間の創出を目指します  
(手法イメージ)

- ・都心の開発誘導による快適な公共空間の確保
- ・再開発事業に合わせたバス待合空間の創出



#### ■地下施設等 ※①③④

「いつでも新しい出会いにあふれ、ゆっくりと歩いている風景」

→天候を気にせずに歩くことができる地下施設等では、多様な空間活用により、いつも違った体験ができる空間の創出を目指します  
(手法イメージ)

- ・人々が快適に滞留できる空間の整備・活用
- ・空中歩廊整備による快適な移動環境整備



# 「（仮称）札幌市ウォーカブルビジョン」中間骨子案

## 第3章:「サッポロウォーカブル推進に資する効果的な手法やモデルケースの紹介」

### 効果的な手法（イメージ）

#### ■ストリートミュージック

【目指す姿】①④⑤

【有効な場】都心◎、拠点◎、住宅△

【役割分担】地域◎、企業○、行政○

・広場や道路等の公共的な空間において、音楽パフォーマンスを実施することにより、人々がにぎわい、また参加者同士の交流促進も期待



#### ■自転車通行空間の整備

【目指す姿】②③

【有効な場】都心◎、拠点◎、住宅○

【役割分担】地域△、企業△、行政◎

・安全に利用できる自転車通行空間を確保することで、安心して快適に移動し、脱炭素化にも貢献



※この他にも、複数の効果的な手法を整理して掲載予定  
（すでに地域で取り組んでいる活動にも着目して整理）

### モデルケースの紹介（イメージ）

#### ■北3条広場



手法C:歴史的建造物を活かした空間形成



手法A:道路の広場化(歩行者空間化)

手法B:地域特性に応じた空間の形成(植栽)

#### 【活用事例】



手法D:地域主体のお祭りイベント



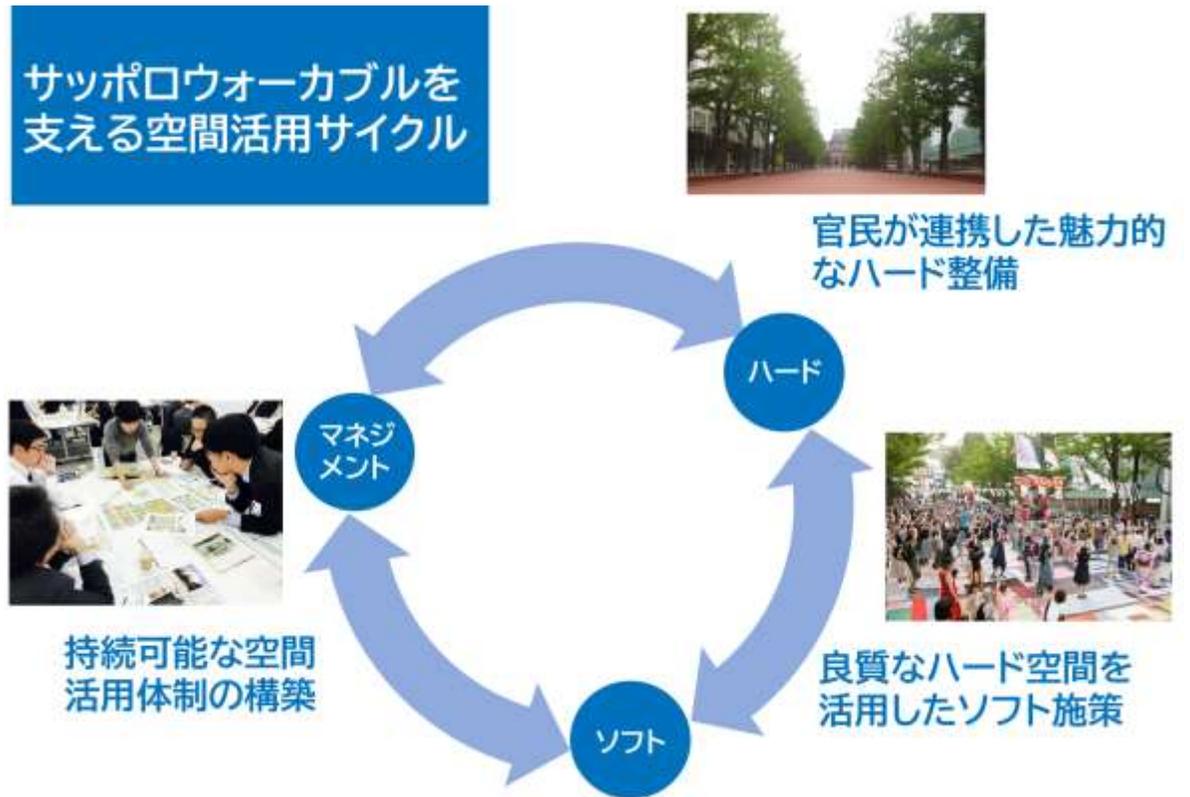
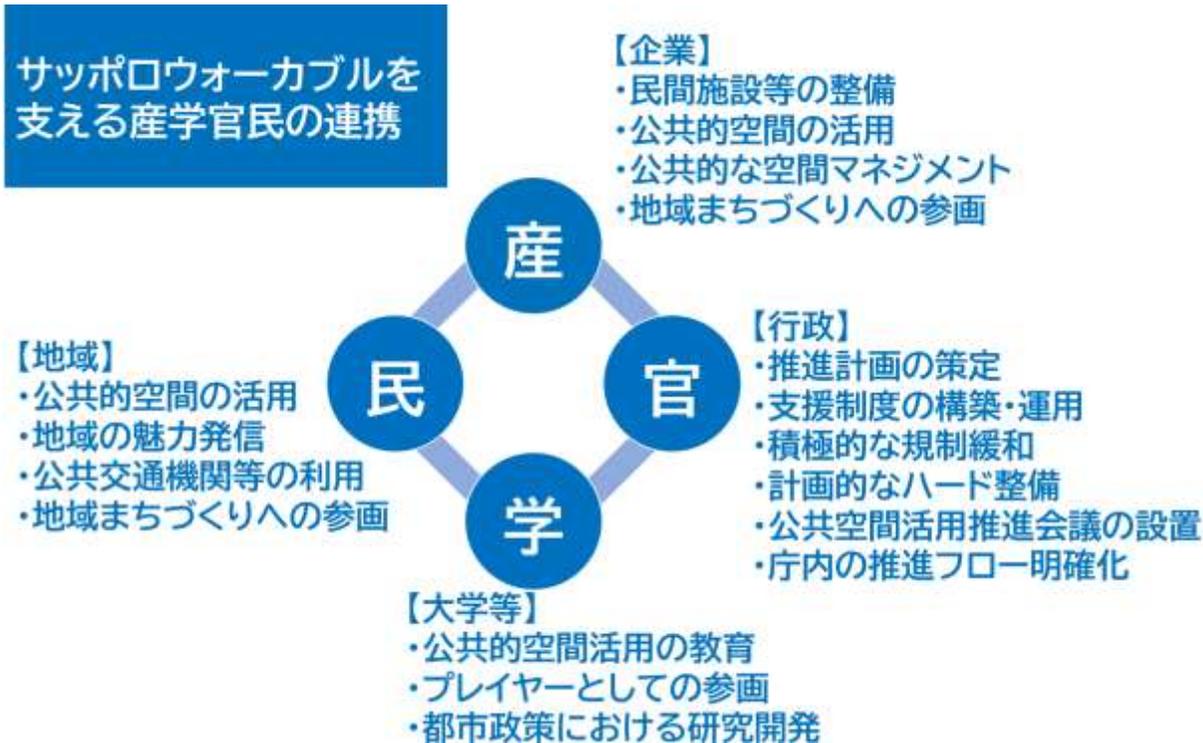
手法E:参加型のアーバンスポーツ

※地域特性の異なる3ケース程度を紹介予定

# 「（仮称）札幌市ウォークアブルビジョン」中間骨子案

## 第4章：「官民それぞれの役割を整理したサッポロウォークアブル推進体制や支援策の方向性」

### 推進体制（イメージ）



# 「（仮称）札幌市ウォーカーカブルビジョン」中間骨子案

## 第4章：「官民それぞれの役割を整理したサッポロウォーカーカブル推進体制や支援策の方向性」

### 支援内容（イメージ）

#### 【整備／活用】

##### （施策例）

- ・緩和型土地利用計画制度
- ・歩行者利便増進道路制度の活用
- ・景観まちづくり助成金
- ・回遊・滞留機能向上に資する取組への助成金 など

#### 【手続き／許認可】

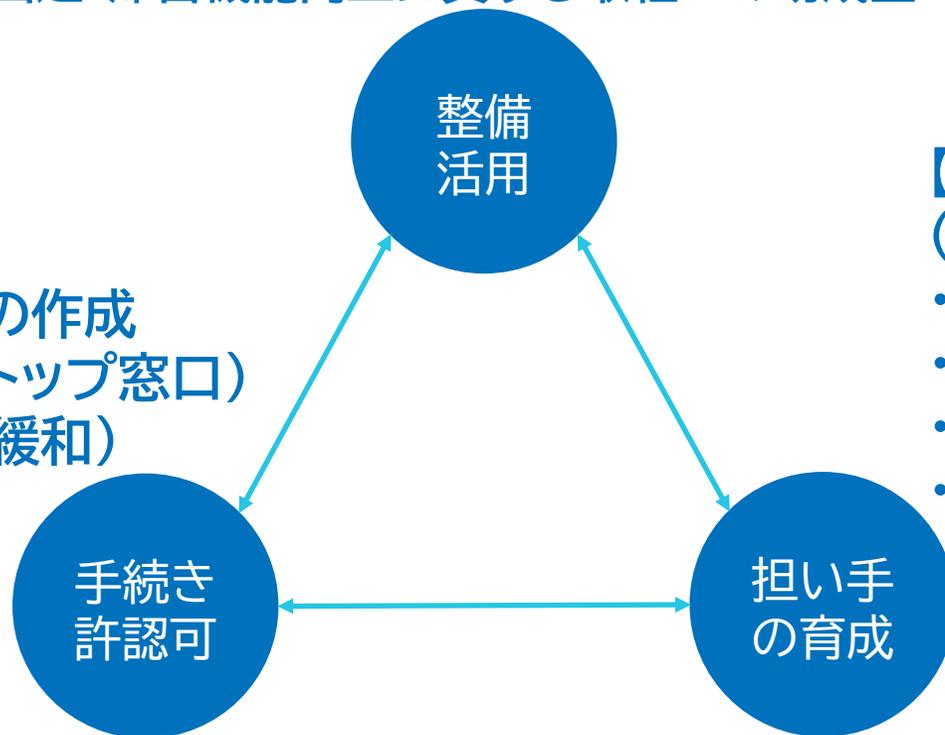
##### （施策例）

- ・公共的空間活用ガイドラインの作成
- ・申請手続きの簡素化（ワンストップ窓口）
- ・空間活用要件の明確化（規制緩和）
- ・バスキング制度の創設 など

#### 【担い手の育成】

##### （施策例）

- ・地域まちづくり講座の開催
- ・アドバイザー派遣
- ・エリアマネジメント団体への支援
- ・公共的空間活用人材の育成 など





## 第2回札幌市ウォークアブル ビジョン策定検討委員会

ご視聴いただきありがとうございました